

十勝毎日新聞

発行所
十勝毎日新聞社
〒080 帯広市東1条南8丁目
電話=編集②2121、広告
③2323、総務・販売③2222
©十勝毎日新聞社 1987



質問する高垣正夫さん

十勝と宇宙開発

講演会から

③

野口武雄(コーディネータ) スカッションを行います。先記、十勝が日本の宇宙基地候補として位置付けられたもの、前大樹町長) ことから、の国土庁の四全総試案では、は講師の二人の先生と会場の、具体的な地名こそ挙げていない、皆さんにより、十勝の航空幸いもの、本道太平洋岸臨海、面産業基地構想について、ディでの立地可能性の検討を明、きな関心を持っていること、思うが、

五千円で足りるのか

高垣正夫(帯広市) 先ほどのスライドの中で、米国防工務局の航空基地の一万五千円を超えるスペースシャトル用滑走路の話がありました。おそろく技術者の間で、長い

質疑応答

ていすが、果たしてそれで足りるのか、それとも将来的には一万五千円の施設が必要なのか、もし必要なら大樹町にはその場所があるのか、をお聞きしたい。また、地球人口が増加しているが、将来これを宇宙的に処理出来るのか、以上二点について教えてください。

若原 本来、スペースシャトルは打ち上げた場所に戻るといつかの機能的。米国防工務局の航空基地構想は、そこに七千七百メートルの滑走路が完成してから戻るようにした。質問の滑走路の長さについては、過去の航空機の歴史からいって、短い距離で離着陸出来るのが機能的で、その方向で開発が進められている。今後開発されるスペースシャトルについても、おそろく技術者の間で、長い

滑走路 1万5千メートルまで可能

十勝南部 5千メートル2本が原案

滑走路なしでも降り、経済的にオプティム(最適)なものを考へて開発するのでは、何かがいらない。野口 地元として言わせておけば、五千メートル滑走路は構想の中ではこれだけあれば十分。スペースシャトル「オリエン」の五千メートルは確保出来るという話もあるが、エンジン二つ、確信を持って進めている。今、リンパには解決方法がある。後、それ以上必要になる時は、

滑走路なしでも降り、経済的にオプティム(最適)なものを考へて開発するのでは、何かがいらない。野口 地元として言わせておけば、五千メートル滑走路は構想の中ではこれだけあれば十分。スペースシャトル「オリエン」の五千メートルは確保出来るという話もあるが、エンジン二つ、確信を持って進めている。今、リンパには解決方法がある。後、それ以上必要になる時は、

滑走路なしでも降り、経済的にオプティム(最適)なものを考へて開発するのでは、何かがいらない。野口 地元として言わせておけば、五千メートル滑走路は構想の中ではこれだけあれば十分。スペースシャトル「オリエン」の五千メートルは確保出来るという話もあるが、エンジン二つ、確信を持って進めている。今、リンパには解決方法がある。後、それ以上必要になる時は、

四千メートル設計の基本、西尾光夫 開発計画研究所で地球環境研究室長をして、長い滑走路でスタート、そこから実用化に向けて徐々に短くなっていくのではないだろうか。先月発表された科学技術庁スペースシャトル検討委員会の結果では、一万メートル、十勝南部の臨海部では、我々が生活しようと思、私には想像がつかない。多く生まれれば多く死ぬという自然法則もある。二十一世紀の人間がどう考えるかは分からないが、おそろく半分以上の人は地球に残ってほしい。米国の生物学者、オ

の設計の基本思想だ。つまり、既存の滑走路を使え、目標としている。実験段階は、長い滑走路でスタート、そこから実用化に向けて徐々に短くなっていくのではないだろうか。先月発表された科学技術庁スペースシャトル検討委員会の結果では、一万メートル、十勝南部の臨海部では、我々が生活しようと思、私には想像がつかない。多く生まれれば多く死ぬという自然法則もある。二十一世紀の人間がどう考えるかは分からないが、おそろく半分以上の人は地球に残ってほしい。米国の生物学者、オ

の設計の基本思想だ。つまり、既存の滑走路を使え、目標としている。実験段階は、長い滑走路でスタート、そこから実用化に向けて徐々に短くなっていくのではないだろうか。先月発表された科学技術庁スペースシャトル検討委員会の結果では、一万メートル、十勝南部の臨海部では、我々が生活しようと思、私には想像がつかない。多く生まれれば多く死ぬという自然法則もある。二十一世紀の人間がどう考えるかは分からないが、おそろく半分以上の人は地球に残ってほしい。米国の生物学者、オ

年間キャンペーン 目指せ宇宙基地第二弾

技術者の意見も聞きながら、対応していきたい。一万五千メートルの段階では練習、訓練施設も含めての考へ方。フラン、今の時点ですべて出すのは、今のスペースシャトル「ヘルメックス」など、現在、世界各国で計画されているものは、大図として発表されたもので、四千万で着陸可能という、一応クリア可能な将来の目標だと思つ。 (つづく)